

小樽地方合同庁舎整備事業

地域連携懇談会（第5回）議事録

日 時：平成19年12月4日（火） 18:00～20:00

場 所：小樽港湾合同庁舎 6階会議室

出席者：

<メンバー> ※順不同・敬称略

(出席)

- ・大垣 直 明 北海道開発局事業審査委員（北海道工業大学環境デザイン学科教授）
- ・駒木 定 正 小樽市景観審議会副会長（北海道職業能力開発大学校建築課准教授）
- ・早川 陽 子 北海道建築士会女性委員長（早川陽子設計室 主宰）
- ・小川原 格 株式会社藪半 代表取締役
- ・鶴谷 征 三 小樽港湾振興会事務局（株式会社フタバ倉庫 取締役総務部長）
- ・白井 正 孝 小樽市老人クラブ連合会 会長
- ・池端 慧 小樽視覚障害者福祉協会 会長
- ・北上 光 雄 小樽視覚障害者福祉協会 副会長
- ・工藤 茂 小樽肢体障害者福祉協会 事務局長
- ・飯田 俊 哉 小樽市建設部まちづくり推進室 まちづくり推進課長
- ・白畑 博 信 小樽市港湾部港湾整備室 事業計画課長
- ・坂本 孝 二 北海道財務局小樽出張所 総務課長

<オブザーバー>

(出席)

- ・山田 悦 郎 北海道開発局小樽開発建設部 小樽港湾事務所長
- ・武藤 義 光 小樽市建設部 建築住宅課長
- ・奥山 充 小樽市福祉部 地域福祉課長
- ・浦野 史 朗 第一管区海上保安本部経理補給部 経理課長
- ・杉林 俊 博 第一管区海上保安本部総務部 総務課長補佐
- ・阿部 淳 一 第一管区海上保安本部経理補給部 経理課専門官

(欠席)

- ・山鹿 俊 孝 北海道開発局事業振興部 都市住宅課市街地事業係長

<事務局等>

- ・新宅 浩 明 北海道開発局営繕部長
- ・岡野 雄 北海道開発局営繕部 建築課長
- ・白坂 憲 悦 北海道開発局営繕部 建築課長補佐
- ・雄谷 正 史 北海道開発局営繕部 建築課営繕監督官
- ・石木田 秀 富 北海道開発局営繕部 建築課建築審査係長
- ・藤澤 道 郎 北海道開発局営繕部 建築課建築企画係員
- ・久光 英 春 北海道開発局営繕部 建築課建築審査係員
- ・武田 泰 幸 北海道開発局営繕部 設備課営繕監督官
- ・永井 宏 明 北海道開発局営繕部 設備課営繕監督官
- ・高田 茂 株式会社安井建築設計事務所 設計部長
- ・木村 直 人 株式会社安井建築設計事務所 設計主幹

● 議事次第

1 開 会

2 挨 拶

北海道開発局営繕部長 新宅 浩明

3 懇談会（第3回）議事録の確認

4 議 事

（1）懇談会（第4回）の意見等について

北海道開発局営繕部建築課 営繕監督官 雄谷 正史

（2）小樽地方合同庁舎検討案について

株式会社安井建築設計事務所 設計主幹 木村 直人

ア) 外観デザインについて

イ) 外構及び植栽計画について

（3）全体意見交換

（4）その他

5 今後のスケジュールについて

6 閉 会

● 配布資料

・議事次第・座席表

・資料-1-1 懇談会名簿

-2 座席表

-3 スケジュール

・資料-2 懇談会（第4回）での意見等について

・資料-3-1 庁舎外観デザインについて

-2 庁舎外構・植栽計画について

・その他 小樽あんしんマップ

議 事

1 開 会

(司会)

本日はご多忙のところ、お寒い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから小樽地方合同庁舎整備事業地域連携懇談会（第5回）を開催いたします。

7月9日に第4回の懇談会を開催いたしまして、本日は第5回ということで開催させていただきま
す。9月末の開催予定でしたが、この時期までずれ込んだことをおわび申し上げます。今までの懇談
会で委員の皆様からいただいた意見を踏まえての、現在の作業状況の説明等を行いたいと思います。

本日の司会進行は、私、営繕部建築課の白坂が務めさせていただきます。よろしくお願いいたしま
す。

また、この懇談会の議事録等につきましては、私どものホームページ等に公表いたしております。
それでは議事次第の2、北海道開発局営繕部長・新宅より挨拶があります。

2 挨 拶

(新宅営繕部長)

本日も、お忙しいところ、また大変寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

最初に会場の手配の段取りが悪く、大変暖房が寒い中で開催することを、まずはおわび申し上げま
す。できるだけ手際よく会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、7月に開催してから大分間があきましたが、前回の第4回の懇談会では、主に外観のデザイ
ンにつきまして、委員の皆様から大変貴重なご意見をいただきました。その意見を踏まえまして、今
回外観を修正いたしまして、さらに提案させていただく予定です。

本日の懇談会におきましては、外観についてある程度の方向づけを行い、工事が発注された後、現
場でのモックアップを行いまして、最終的な色などを決定したいと考えております。

さらに今日は外構計画、植栽計画についてご意見を求めたいと思っております。良好な景観形成、
あるいはまちづくり、ユニバーサルデザイン、そういった観点からのご意見をいただければと思いま
す。

毎回申し上げていることですが、大変厳しい予算の中で進めております。現在、設計、積算が終わ
り発注の準備を進めている段階ですが、21年度末の完成を目標に行っておりますので、皆様方のご
協力をお願いしたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

次に資料の確認をしたいと思います。

(資料の確認)

3 懇談会（第4回）議事録の確認

(司会)

続きまして、議事次第の3、懇談会の議事録の確認をさせていただきたいと思えます。委員の皆様
には第5回懇談会の開催案内と一緒にお送りさせていただき確認をお願いしておりましたが、改めま

して、何か不都合や記入漏れがありましたら、ご発言をしていただきたいと思います。何かありますか。

ないようですので、これをもちまして懇談会（第4回）の議事録とさせていただきます。

4 議 事

（司会）

では、これより議事次第の4、議事に入りたいと思います。議事進行につきましては、座長の大垣先生をお願いします。

（座長）

それでは、議事次第に従い順次進めてまいりたいと思います。

1 番目の懇談会（第4回）の意見等について、事務局からお願いいたします。

（1）懇談会（第4回）の意見等について

（事務局）

別紙 資料-2（懇談会（第4回）での意見等について）
による。

（座長）

前回出ました意見を整理いただき、それに対する見解も、後の具体的な計画の中で説明するということですので、全てではありませんが説明していただきました。前回出ました意見等の整理について、何かご意見ありますでしょうか。具体的な部分はこの後に説明があると思いますので、ご異議なければ、次の議題に移りたいと思います。よろしいでしょうか。

（委員）

よろしいです。

（座長）

それでは、議事の（2）小樽地方合同庁舎の検討案についてですが、内容が2つあります。外観デザインと外構及び植栽計画です。まず、外観デザインについて議論した後、外構・植栽に移りたいと思います。では、最初に外観デザインについて、事務局よりご説明をお願いいたします。

（2）小樽地方合同庁舎検討案について

（事務局）

別紙 資料-3-1（庁舎外観デザインについて）
による。

（3）全体意見交換

（座長）

それでは、外観デザインの考え方と具体的な素材、色についてもご提示があったわけですが、少しフリーディスカッションでいろんな意見を出していただければと思います。いかがでしょうか。

(委員)

色のことについて伺いたい。この場での意見がどの程度採用されるか、いよいよ詰まってきたと思いますが、今提案されている色は、まず基本的に外壁面は黒を予定されているということでしょうか。そして、対案としては、ステンカラーを出されていましたが、その2つの中から黒はどうかという提案なのか、それとも色はまだ変更になるものなのか、こういったニュアンスで聞いたらいいか教えていただきたい。

(事務局)

建物を設計している立場からいいますと、基本的には黒を本命と考えています。ただ、その中で、今おっしゃった対案については、ステンカラーを考えています。エントランスホールについては、際立たせる、海に対しての軸というのが今回建物の基本的な形になっていますので、その部分については黒を考えていますが、山側、海側についての庁舎立面はステンカラーという考え方もあると考えています。基本的には先ほどご説明をした、いろいろな方向から見たときの存在感、この建物が周りの風景に埋没しないこと、あるいは雪の中でもしっかり見えること、そういったことを考えると、黒い物で細かくリブをつけることでいろいろな表情がついてくると考えています。べたっとした黒ではなくて、むしろグレー、あるいは白いぐらいに見える素材を提案したいと考えています。

(委員)

それ以外の色は想定の中にはないということですか。例えば、素材の製品としては色が限定されているということですか。

(事務局)

表面のリブ形状の異なるものや、もう少し茶系のものもあるのですが、そういったものについては、今回の建物からいいますと、ちょっと甘いというか、しっかりした色合いとしてなじまないのかなと感じました。今回は、はっきりとしたコントラストを出すという意味で黒を考えています。もし、違う考え方をするのであれば、むしろステンカラーと考えます。ステンカラーのときは、もう少し妻面のタイルの色も含めた比較をしていかなければいけないと思っています。

(委員)

実は先週、市の景観審議会がありました。この建物は議題にはあがっていないのですが、市から今回の建物の色はこういうふうに出出が来ていますと紹介を受けました。その中で、この黒と白、妻面が白っぽい色で、モノトーンの色合いは小樽の景観行政の中で今まで使っていない色です。余りにも強く主張する建物になるのではないかという意見が出ていました。

(事務局)

これからの建設の手続きに向けて、景観の届け出を事前に出しています。その記載事項の中で、色はマンセル記号という数値化した記号で出さなければいけなかったのですが、先ほど説明した光の反射や素材感、そういったものは抜きにして、色は白か、黒か、何色かとなりますとマンセル記号では「黒」という表現の「N1」で届出を行っています。それだけでの話になりますと、何か真っ黒な建物ができるのかという印象があるのかもしれませんが、小樽市のほうにも、今回の建物のイメージの説明はしていますが、先ほどお見せした長野県の事例や東京の事例、この黒いスパンドレルの素材感などの説明はまだしていません。書類上の数値化された色の届出をただけです。

(委員)

今説明された黒で凹凸があるというのはわかったのですが、果たしてこの色が小樽の中に合うのでしょうか。今想定されている色というのは提示された色をまず考えているということですか。

(事務局)

昔の倉庫のかわらの色なども明らかに黒とグレーです。昔の建物の高級感は、黒で表現される部分があります。小樽のかつての繁栄を彷彿させる雰囲気は出るように考えています。

(座長)

どうぞ、どんどんご意見をお願いします。

小樽という土地柄もありますし、それから、運河に面して引き立つということも含めて、大概の方がここで生活されている方ですので、そういう立場からお願いします。

(委員)

実は私も景観審議会に出席していた経緯があります。今日の説明を聞かせていただいて、まず小樽の全体の街の風景と建物が一致しているということを考え、おそらく設計者の方が設計されたと思うのですが、小樽のカラーは確かにモノトーンですが、そこに微妙にセピアという要素が入っています。黒といっても、色相からいうと黒よりちょっと茶が入ったような黒です。同じ黒でも、小樽の黒というのは、私の中ではそういうイメージです。実際に材料と色を見せていただいて、現代的な金属のアルミというものは、沿岸のある地域にとってはとても合うと思います。ただ、その色からいくと、「N2」という黒は、やはりもう少し幅をもって考えた検討が必要なのかなという印象があります。

それから、遠景と近景でいろいろ検討されて、たくさんの資料もありがたいと思うのですが、どうしても駅から歩いてきたときに一番初めに見える、今のアングルの白い部分（妻面）がどうしても裏というか、開かれていないのが少し残念な気がします。いっそのこと吹抜け部分の色を黒ではなく白にしてしまったほうが、統一感があるのかなと感じました。裏口的なものが見えてくるのを植栽で隠すとか、何かそのほかの方法もあるのかもしれませんが、せっかくガラス張りの小樽にはない空間ができて、表に現れてきていない。スライドを見ての印象です。

(事務局)

スパンドレルの色は黒をベースに考えていますが、その考え方の基本は存在感を出すしっかりした色を出したいということです。それが目立ち過ぎるといったところを懸念される意見もありますが、いろんな場所、あるいは見える方角によって違う見え方をする材料です。黒いスパンドレルだけではなく、タイルとの印象も含めて、最終的には現場でモックアップを立てながら、場合によっては向きを変えて、黒といっても、アンバーとどこまで中間のものを出せるかは調整が要りますが、そこら辺を実際の施工段階で各事業者さんと協力しながら確認していく必要はあると思います。ただ、今回の電解着色という技術は、塗料の配合でバシッと決まるというより、焼き物ではないけれども、色を出してみないとわからないところもあります。その辺はこれからいろいろな検討は必要かと思います。基本的には黒の色合いで、見え方、あるいはその中での濃淡、そういったものを比較する必要があると思います。

(座長)

黒っぽい色というのは。

(委員)

パースの色は黒ではないですね。何か少し茶色が入っているように感じるのですが、こちらのほうが私は好きです。これだと割と壁の色と和んでいいのですが、Aの黒（スパンドレルのサンプル）というのは本当に黒ですごいきつい色だと思います。

(事務局)

あとは表面処理の仕方については調整が可能です。

(座長)

つや消しということですね。

(事務局)

はい、そういうことです。つやの出し方というのは、比較的微妙な幅を出していけます。あと、アンバー系の色を微妙に加える、減らすということが電着でできるのかということ、今までやったことがないので、それが、今の我々が考えている予算の中で可能な技術かどうか踏まえて確認する必要があると思います。

(委員)

こういう色というのは、例えば、朝日とか、夕日、光とか、曇りとか、晴れで、ものすごく変わるのでか。鏡みたいになってしまう感じなのですか。

(座長)

鏡というより、光の当たり方によっては、おそらく白く見えるときもあります。

(事務局)

黒というのは一般的に光を吸収してしまうから黒なのですが、逆にこういった表面が反射するとなると、ほとんど白っぽく見える時間帯も出ます。ただ、ステンカラーというのは、逆に言うとミラー反射があつて、ちょっと心配かなといったところがあります。いわゆる光の影響が出てしまう気がします。このぐらいのトーンで、ある程度光つても、あまりテカテカしないという形の物のほうが、今回は庁舎としてなじむかと思います。先ほどご意見のあった、小樽の中での微妙な色合いといったところのバランスが課題かもしれません。

(委員)

言葉でしゃべるのと、色で識別するのは違うと思います。存在感があるのならいいのだけれど、黒というと威圧感というか、まして中に税務署が入っているでしょう。そういうイメージになってしまう。どうしても言葉でしゃべってしまうと。だから、朝日や、昼間の太陽や、夕日がどういうふうの色合いが出ていくのか、全く想像もできない。縮まっているという意味では、すごく縮まっているのですけれど。

(事務局)

(スライド事例写真にて) ステンカラーの状態ですと、光の当たり方で、正面から当たるとあまり変化がつかないですが、リブの側面に光が当たりますと、リブの部分が光りますので、「テカリ」を持った形になります。黒の場合は、リブ側に光があたると当然グレーっぽくなりますが、どちらかというところ落ちついた感じで見えるのかなという気はします。ただ、この事例写真の表面形状に比べ今回のリブの形というのは、もっととがっていますので、もう少し反射の影響は薄くなるかなという気はしています。

(座長)

こちら(今回庁舎のリブ形状)のほうが薄くなるのですか。

(事務局)

そうですね。光を受ける角度というのは、小樽は太陽高度低いですし、今回は西日の光を受けます。特に山側はこの写真に近い方向から光が当たると思います。

(座長)

松本の事例も映していただけますか。

(事務局)

こちらのほうが、リブの形状としては(今回庁舎のリブ形状に)近いです。

(座長)

リブというのは、この突起のことですか。

(事務局)

そうです、このでこぼこです。このでこぼこの形は、今回はこちら（松本の事例）のほうに近いです。やはりこちら（松本の事例）のほうが、どちらかというところグレーというか、少し薄目に見えると思います。ただ、松本のスパンドレルは電着ではなくて塗装だと思います。ですから、ひよっとしたら黒にもう少しグレーを入れるとか、微妙な調整はこの場合していると思います。

(委員)

でも、黒には見えませんね。

(事務局)

実際見てきましたが、これ（黒のスパンドレルのサンプル）に近い色合いの黒の色です。これ（黒のスパンドレルのサンプル）よりはもっとトーンの落ちた黒ですが、表面にでこぼこがあるので、先ほどマッドとおっしゃいましたが、わざと表面にでこぼこをつけているのです。でこぼこをつけることでやわらかい感じになっています。写真では、ちょっと黒光りしているような感じに見えると思いますが、その下に黒いぶし銀の新しいかわらがあります。そのぐらい濃い色に対して、もっと濃い色を使われているようです。

(委員)

こういう凹凸があると、また違うのかもしれないですね。

(委員)

今の写真は全くの黒ですか。

(事務局)

黒です。塗装なので表面処理は違いますが。

(委員)

グレーが入っているとかはないですか。

(事務局)

もう少し近くに寄っていただくと、実はこのリブとリブの間にも、アルミ押し出しのダイスの跡を意図的につけているんです。こういうリブにさらに細かいリブをつけていく工夫はしています。おそらく黒に近いグレーですが、かなりそこら辺はいろいろ工夫されています。実際に施工されたメーカーさんに話を聞いたのですが、設計者がかなりこだわっているというお話がありました。こうした細かい凹凸をいろいろつけながら、色としては黒で塗装しています。

(座長)

写真のほうは大体わかりました。

リブがついていますので、時間帯とか、見る角度によって色が変わってくるのは理解できました。具体的にどのようなになるかというのは別として、べたっとして、どこから見ても真っ黒だという素材ではないことはご理解いただけたかと思いますが、本当に真っ黒に見えるときも、どこかの角度ではあるのかもしれない。それは現物を見ないとわからないですが。

(委員)

ここにあるサンプルも光があると今でも白く見えますね。

(座長)

多分真っ黒にはならないと思います。サンプルを立てていただけますか。

(座長)

見る角度によっては、黒く見えるし、ちょっとはすから見れば白っぽく見える。

(委員)

サッシの色は何色ですか。窓枠は。

(事務局)

サッシは今ステンカラーを考えております。ただ、水切り等は外装スパンドレルに合わせています。

(委員)

何か威圧感が。存在感ではなく、威圧感を感じる。これが大きな面であると。

(委員)

先ほどの話で、それは正式な決議でも何でもなくて、ある委員会が終わった後にたまたま色の話が出たときには、街の風景のなかで基本的には真っ黒はちょっときついのではないかと。その中で出たのは、実際にできるのかどうかはあるのですが、例えば、ちょっと赤みのまざった黒にしてはどうかという意見です。黒は基調ですが、色見本の中でそのときぱっと見て、マンセルの10R2/2ぐらいのような、ちょっと赤みが入るとどうだろうか。ただ、実際に可能なかどうかの話がありますので、できないよと言ったら全然話になりませんが、要するに今ここで提示されている色から、もうちょっと変えることができるのでしょうか。

(座長)

それは技術面、コスト面でということですか。

(委員)

そうです。

(事務局)

濃い茶、つまりアンバーですが、アンバーをかなり黒に近づけるようなことが、電解着色の技術で配合の問題で解決できるのか、量産されている標準色の範囲で調整できるか、今のこの場で即答はできません。

(座長)

この色自体は量産色ですか。

(事務局)

標準色は3～4種類くらいあります。ステンカラーと黒の間に茶系があります。メーカーによっても微妙に色が変わってきます。

(委員)

単独で見ればすごく存在感があると思います。確かに、白と黒でドーンとくるわけですから。ただ、1個だけじゃなくて、街の中でみると、運河が控えている背景にドンと出てくるので、そういうことを心配して、いろいろ話させていただきました。

(座長)

ステンカラーは、やっぱり全く同化するイメージですね。

(事務局)

小さいサンプルがあるのでお返しします。(アルミカラーサンプルを回覧)

(座長)

(アルミカラーサンプルを見て)例えば、これは全く黒に見えるけれど、これは赤く見える。この黒だと赤っぽく見える。

(事務局)

この辺が私の言ったアンバーなのですが、ただ、それも、この面積(サンプル)で見ると、実際の壁面の面積で見るとは全然違うと思います。多分もう少し赤みが出てくるはずですよ。ですから、先ほどお話ししたのは、この微妙な色加減が指定してできるかということですよ。基準色であれば、検討の枠に入りますが、微妙な色出しがどこまで可能なかは確認が必要です。

(事務局)

今お見せしているのがメーカーさんの標準タイプの色です。ですから、それから違う色にすると、相当コストは高くなるのではないかと思います。

(委員)

小樽市ではマニュアルとなる色というのを今つくっています。その色彩の中の色相的なもので、黒の中でも赤味のあるものの方がいいのかなと感じています。あとは現場でもし案外黒の方が合うかなということもあるかもしれないですし、太陽の光で見るとまた違いますからね。

(座長)

どうもこのパースは、プリンターの性能と、意識としては横から見ているので、少し光のトーンが落ちているという想定で多分作られたのでしょう。真っ黒ではなくて。

(事務局)

一応CGですから、太陽方向を変えて作っていますので、その影響が若干出ているかもしれないですが、ただ、その黒の中の赤はプリンターの性能で若干変わります。

(座長)

このプリントされているぐらいの色味であれば、小樽市が考えている色の範疇に入るといえるかどうか。

(委員)

微妙ですけど、断言はできません。

(委員)

市としてこのぐらいの色ならクリアできますか。

(オブザーバー)

景観的には、先ほど町並みとのお話がありましたが、離れて見ると確かに対比があってしまって見えるのですが、この建物のそばを訪れたときに、6階建ての高さで黒となると、先ほど松本の写真でも見ましたが、その濃さの色を使うと、そこを訪れた人に相当インパクトがあるというか、それが気持ちよく、華やぐようなインパクトなのかという心配があります。黒でも、先ほどあったように茶かグレーが入ってくるとそんなに気にならないようにも思いますが、訪れた人にとってどうなのか、実際はそれはが心配の種です。アクセント的に使う分には、大変モダンな感じになります。

(委員)

建物単体で見ればおもしろいのですが。

(事務局)

いずれにしても、大きな壁面に対して受ける印象はそれなりにあると思います。全体が四角い黒い箱だと少し気になりますが、今回の庁舎では妻面と平面を切り替え、コントラストをつけていますので、インパクトはそれなりに出ると思いますが、それほど違和感を覚えるような物ではないと思います。全体が四角い箱、全体が黒とは少し違います。

(オブザーバー)

もし、どうしてもこれぐらいの面で黒っぽい色を入れるのなら、逆に妻面をそういう色で、白っぽいけれど金属を使ったほうが建物の品ですとか、そういうものが出るのかなと思います。札幌でもこれだけ黒を使っている建物は記憶にありません。花崗岩のつるつとしたものは見ますが、結構これぐらい濃いのが全面に色がつくと、モックアップを作った程度ではわからないのではないのでしょうか。

(委員)

見上げる感覚と、遠くから近づいていく感覚と、全然やっぱり違いがあるでしょうね。

(座長)

多分このレベル（中央通りからのパース）で見ている分には、黒っぽいほうが存在感があるのはわかるのですが、問題は近づいたときにそれがどうかということ。つまり、存在感なのか、威圧感なのか。非常に判断は難しいですが、小さいものとか、部分で見ていると、なかなか全体像が見えない部分があって、それをどう評価するか難しいですね。松本はどんな感じでしたか、遠景と近づいたときの感じというのは。

(事務局)

そんなに威圧感とか、そういった印象は受けていないです。というのは、足元回りにそれなりに緑があって、松本の美術館は大きな壁面の真向かいに中庭があります。そこは一面緑の芝生です。先ほどお見せしているパースも全て緑を外して建物だけを見せていますので、今回も建物際に緑を配するなどしていますので、そういったことをすると、個人的にはそんな違和感を覚えるような素材ではないと思います。

(委員)

これ（松本美術館）で実際には何階ぐらいになるのですか。

(事務局)

これは美術館ですから、扱いは4層ですが、もう少し高い、5階建てか6階建てのボリュームです。

(委員)

ということは同じぐらいの高さということですね。

(事務局)

そうですね。

(委員)

それがフラットで連続の窓がずっと壁に並んでいるというイメージですね。

(事務局)

そうですね。実際には目地やジョイント部分などもありますが。

(座長)

先ほど植栽の件がありましたが、それとも絡むのですが、手前に植栽があれば、バックの印象は大分変わってくると思います。今回、このパースにもありますが、どの程度の植栽を考えていますか。これ（パースの樹木）は歩道に植わっているのですか。

(事務局)

これは歩道の樹木です。建物際には、どちらかというとな花木、地被類がきます。

(座長)

街路樹がどれぐらいの間隔で入ってくるのかわからないのですが、割合密に入ってくるのであれば、少しは違ってくると思います。

(事務局)

街路樹は低木と高木の組み合わせになると思うので、緑の帯になると思います。建物際は、芝か花木という形になります。ただ、実際建物際に壁面を見渡すことはかなり意識してないといけないので、むしろ建物に近づいていくときに、先ほどお話のあった目標の庁舎のイメージと植栽が重なる部分が出てきます。

(座長)

植栽計画とも関わるのですが、一番全面に割合高木を植えるような計画でしょうか。

(事務局)

植栽についてはこれから説明します。

(座長)

大変時間が経過していますので、簡単に植栽のご説明をお願いいたします。

(事務局)

イ) 外構及び植栽計画について

別紙 資料-3-2 (庁舎外構・植栽計画について)

による。

(座長)

植栽計画で何かご意見ありますか。割合北海道になじんだ木を中心に選ばれていますので、その点はいいと思います。もともと北海道にあった在来種で、北海道の気候に合うと思います。

(事務局)

植栽関係は、北海道のランドスケープの方とも相談をして、実際に小樽周辺を歩いて調べています。小樽では海際は少し枯れている木もありましたが、山方面も一緒に見て回っています。展望台周りでは比較的カエデ関係がきれいでした。

(座長)

植栽計画はこういった感じで考えるとしまして、前面道路と敷地の境界の間に2mほどの分離帯があって、そこに5m間隔で高さ3m程度の高木を植え、将来的にはそれが少し大きくなっていくだろうと思います。1~2階程度は、近づいたときに植栽でカバーされる部分があるため、それで緩和される部分はあるにしても、スパンドレルの面積が大きいですから、それをなかなか検証する方法がないので難しいですね。

(事務局)

現場でモックアップするのがベストな方法だと思います。現場体制が固まった中で、最終形をつくり上げる組織ができた中で、その場所で実物を見るのが唯一の手段だと思います。当然それが実物ほど大きいわけではないですが、ある程度それを想像できるような材料の組み立てをしながらモックアップをする方法がベストだと思います。

(座長)

成功すれば非常にシャープで存在感のある、良い建物になりそうな予感はあるのですが、一步間違えると、先ほどあったように非常に威圧感のある、それは小樽市民にとってという意味ですが、そういうものになるのはまずいと思います。一つは先ほど出ていた、色味を多少緩和することが可能なかどうか。それから植栽の効果も少し取り入れて、植栽で多少緩和できるか。それを考えながら最終的に決めていかないといけないと思います。できたものを3つ並べてどれがいいかというなら非常に簡単な話なのですが、なかなかそうはいかない。

(事務局)

今、小樽市のほうでカラーガイドを作成中ということですので、我々としても、そういった動きがある中で相反することをやるのもどうかと思います。そういったものがあれば、やはり守っていかねばならない立場だと思います。我々が情報を知り得なかったのも悪かったと反省しているのですが、市とまた再度協議させていただきながら、本当に今のサンプル以外で色的な物ができるのか、コスト面もあわせて調整させていただきたいと思っています。今日の意見を踏まえながら、またモックアップの前にも何とか懇談会を開催したいと思っています。

(座長)

はい、わかりました。この小樽の色のガイドラインができるのはいつごろですか。

(委員)

基本的には今まで使っている色の踏襲をベースにしているようなので、市の事務局から提示のあったものでは、いわゆる無彩色は今までは避けてきたということのようです。

(事務局)

カラーガイドというのは明確な言葉みたいなもので表現されているのですか。

(委員)

実際には、明度、彩度を、ある程度ラインを引いて素案はつくっています。そこに無理におさめてしまうと、逆に今の設計の意図である、いわゆるシャープなところからは外れる感じかと思います。しかし、無理に入れなくても、ある程度近づけつつ、設計の意図を大事にしていくラインはあるのではないかと思います。変な言い方ですが、そういう感じで話はしています。だから、絶対に無理やり市で今考えているところまで引っ張るという強いところまではないけれども、ただ、全体の景観を考えると、白と黒という、そここのところは考えたいという感じでしたので、ご相談をしてみてください。

(座長)

この妻側は白ではないですね。

(委員)

こっち（妻面）は、特に問題ないとは思いますが。

(事務局)

先ほども説明したように、マンセル記号の白と黒の世界で提示している状況だったものですから。

(座長)

一度その辺も含めて、そのラインの中にどの程度なら許容範囲なのかを、一度、市と協議していただければと思います。今日は、かなり大きな面積の外壁の色の決定ですので、いろんな意見が出ましたが、設計側の意図としての、非常にシャープで存在感のあるデザインというのは、基本的には私も賛成です。しかし、実際その面積が立ち上がったときに、それが遠くのスケールから見ているのではなくて、近くから見たときにどの程度の見え方がするかを少し検討する必要があるのではないかと思います。このスケールで2つ並べて見ると、こっち（黒）のほうがいい案だと思うのですが、多少の色味の変更ができるかどうかとか、あるいは植栽等も含めて少し並べてみると大分気にならなくなるよとか、そのようなことも含めて少し事務局で相談されて検討していただきたいと思います。どこかでその辺について意見を交換できる機会があるのであれば、またそのときにやればいいと思います。具体的に設計が進んでいるわけですから、今日の意見を踏まえながら、また検討といたしますか、少し考えていただくということで、開発局と少し相談していただければと思います。ちょっと曖昧な言い方になりますが、基本的な考え方はいいので、その辺の検証とか、市との調整とか、幾つかまだ残っている課題を少し検討した上で最終決定すればいいと思っています。その辺を進めていただければと思います。そういったことで皆さんよろしいでしょうか。では、そのように進めていただきたいと思っています。

(4) その他

(座長)

その他で何か議論しておくべきことがありますか。

(事務局)

事務局からよろしいでしょうか。今回の懇談会はこういった景観もそうですが、ユニバーサルデザインも入っておりまして、団体の代表の方にも参加していただいています。今後、我々としてもそういった団体の方と一回お話をする機会を設けたいと思っています。

(座長)

そうですね。それは結構なことだと思います。

(事務局)

どこまでできるかという話がありますが、一度、団体などとも打ち合わせをしながら、実際に生かせることは生かしていきたいと考えております。こういった感じではないレベルで、また説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。詳細はまた改めて個別にご連絡いたします。

(座長)

5番目の今後のスケジュールに移りたいと思ひます。事務局から願ひします。

5 今後のスケジュールについて

次回の開催時期については、事務局で調整し、ご連絡いたします。

6 閉 会